

小学部 体育科（人権）学習指導案

1 単元名 笑顔で感覚遊び～かかわりを楽しもう～

2 単元設定の理由（一部省略）

本学習グループは医療的ケアを必要とする児童が在籍する重度・重複障害児学級である。学習活動については、自立活動の時間に身体のゆるめや体位変換、抗重力の姿勢保持等を行っているが、その他の教科などの学習活動および食事は、車いすで過ごすことが多い。また、自分で身体を動かすことが難しいため、同じ姿勢をとり続けることが多い。そして、重度・重複障害ということもあり、抱っこ一つをとっても配慮事項や姿勢を整える技術が必要となり、どの児童もかかわることができる人が限られる傾向がある。また、慣れない人とのかかわりに大きな不安を感じる児童もいる。障害がどんなに重度でも、なるべく多くの支援者とかかわれるようにすることが児童一人ひとりの人権を大切にすることであり、豊かに生きるための第一歩であると感じた。

本単元では、「ふれあいリラックス体操」と「ポキポキダンス」の目標としては、ボディイメージをつくり、自分の身体に気付き、身体の動きを促すことをねらう。一方で、人とのかかわりを、楽しい音楽を伴って人に触れられることを心地よく感じてほしいと考えている。次の「抱っこでの揺れ遊び」では、普段自分での動きの少ない児童にダイナミックな身体の動きを体験させ、その中で動きに応じて身体のバランスをとることをねらう。抱っこする教員をローテーションし、人が変わっても、その人とのかかわりを楽しめるようにしたい。感覚遊具遊びでは同じく、ダイナミックな感覚運動遊びの中で、揺れに応じて身体のバランスをとり、抗重力の姿勢だけでは成し得ない微細な身体の動きを促したい。また、揺れなどの動きに慣れ、今後車いすの移乗や介助場面での身体の移動に伴う動きを不安に思わなくなしてほしい。最後にパラシュートのゆっくりとした動きを見たり、リラックス音楽を聴いたりすることで活動をクールダウンさせ、楽しかった気持ちを心地よさに変えて終わりたいと考えている。そして、すべて場面において、楽しい活動の中で、感情の表出や意思表示をめざしていく。また、環境設定として、活動に応じた姿勢やポジショニングに配慮した。リラックス場面では、接地面が安定し、不当な力が入らないポジショニングを行う。感覚運動場面では、抗重力の姿勢で抱っこし、フィジオロールにのり、体幹に力を入れ、自分で身体を保つ動きを促すように支援する。

児童の将来を見据えたときに、人とふれあうことに慣れ、かかわりを楽しめることが感情や意思の表出を促し、未来を切り開いていく基盤になると考えた。今後身体も大きくなり、より一層の生活介助や支援者が必要となることが予想される中で、人を信頼し、かかわることを心地よいと感じ、楽しめるようになってほしいと思い、本単元を設定した。

3 単元の目標

- (1) 触れられることにより、ボディイメージを形成し、手足の動きを促す。
- (2) 人とのかかわりの中で心地よさを感じ、かかわりを受け入れることができる。
- (3) 感覚遊びの中で楽しい感情やもっとやりたい意思を表出することができる。

4 指導計画

- (1) 「ふれあいリラックス体操」「ポキポキダンス」「抱っこで揺れ遊び」：1年を通して準備運動として実施。
- (2) 感覚運動遊び：1学期（ユランコ）、2学期（フィジオロール）
3学期（ファシリテーションボール）

5 本時

(1) 個人目標

(省略)

(2) 普遍的な学習のテーマ 「人とのかかわり」「感情・意思の表出」

(3) 展開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価
1 始まりのあいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ T1 は VOCA を提示しながら号令をかけたい児童を募る。児童の意思表示を待つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 笑顔や発声，身体の動き等で意思表示することができる。
2 「ふれあいリラックス体操」を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ リラックスできる安定した仰臥位のポジショニングを行う。 ・ 楽しい雰囲気心地よい触れ方に配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 触れられて，身体の動きが増える。 ・ 触れられていることを意識し，リラックスして応じることができる。
3 「ポキポキダンス」を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安定した抱っこの姿勢で，歌にあわせて手や足等を動かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 抱っこされたり，手足を動かしてもらうことで笑顔や発声で楽しい感情を表出できる。
4 「抱っこで揺れ遊び」を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数の教員とかかわることができるように数回ローテーションして行う。 ・ 児童の実態に応じた抱っこの姿勢をとれるよう配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数の教員とのかかわりを楽しみ，笑顔や発声で楽しい感情を表出できる。
5 フィジオロールで揺れ遊びを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童に応じた姿勢で教員と一緒にフィジオロールに乗り，歌を歌いながら上下の揺れ，左右の揺れを経験させ，バランスをとろうとする動きを促す。待っている児童が楽しめるように歌に合わせてタッピング等を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 揺れ遊びの動きに応じて身体のバランスをとろうとする。 ・ 感覚運動遊びの中で，楽しい感情やさらに続けたい意思表示を笑顔や発声，身体の動き等で表出することができる。
6 音楽を聴きながらパラシュートを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ リラックスできる音楽を聴きながら，ゆったりとしたパラシュートの揺れや風を感じられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パラシュートの揺れや風を感じ，リラックスすることができる。
7 終わりのあいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ T1 は VOCA を提示しながら号令をかけたい児童を募る。児童の意思表示を待つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 笑顔や発声，身体の動き等で意思表示することができる。